



2024年6月7日発行

No.55

早稲田大学本庄高等学院通信

書：3C 勝 香里奈 (書道部)

発行：早稲田大学本庄高等学院 発行人：半田 亨 〒367-0032 埼玉県本庄市栗崎239-3 ☎0495-21-2400 <https://www.waseda.jp/school/honjo/>

MOU

早稲田大学本庄高等学院 学院長 半田 亨

MOUとはMemorandum Of Understandingの略で、合意書・協定書という意味です。本庄学院は2024年2月にタイのMahidol Witayansorn School(MWITS)と3月に台湾台中市立台中第一高級中学(台中一中)とMOUを締結しました。MWITと本庄学院の関係は文部科学省指定のSuper Science校(SSH)だった2005年に遡りますが、MOUは締結していませんでした。開校以来修学旅行の交流を続けてきた北京大学附属中ともMOUを交わしていません。台中一中との関係はこれもSSH校だった2005年に始まります。その時に当時の学院長尾崎肇先生との間で、MOUを締結していましたが、その後台湾の高等学校制度の変更で「国立」から「市立」に変わったことにより、MOUの再締結を台中一中側から求められていました。

MOUを締結しなければ学校間の交流を始められないということはありません。事実、MWITとの間ではMOUはありませんでした。この間密な交流を継続しています。そのため、MOUを婚姻届に例える人もいます。婚姻届は出すことによって税金の控除や代理手続きなど、市民としての利点が生じます。MOUではそのような利点はありません。ただ、高校と大学ではMOUが異なります。大学では、例えば共同研究をした際の知的財産の問題など大きな問題が生じ得るため、考えられるトラブルへの対応を条約のように書きます。そのため、MOUはA4版で5ページくらいになります。一方、高校では大体、「交流を通して双方の理解と教育の向上に資する。」など、ほんやりの文章を3つくらい入れたものです。現実問題、高校においてMOUのあることが両校の交流活動を促進したり、制限を加えたりという影響は全くありません。では、何故MOUを締結するのか？実際、MOUに、だわる学校が多いことも事実です。特に、海外校では、国によってはMOUを締結していない学校とは交流を認めなかったり、MOUがあると国際交流に予算補助があるといった



ことがあるのかもしれませんが、日本では、そのようなことはありませんが、学校として対外的なPRに使うことができます。MOUは役割を終えてもずっと残っているLINEのグループにも似ています。通常、「特に必要がない場合は、自動更新されるものとする。」という条件を最後に入れるため、何もしないと交流関係がなくなっても永遠に続きます。本校の交わしたMOUは(全てではない)校舎一階保健室前で確認することができます。



学校の教育環境づくりは、施設設備を充実させれば済むというものではありません。ハードウェアとソフトウェアが一緒に充実した時に、より大きな教育効果をもたらします。教育がそれぞれの学校の中で閉じていた時代は終わり、必要とされる知識・技術が拡大していく中、教材や教育メソッドを広く学校外に求めることが必要とされています。例えば、私の担当している情報科でも、もはや教員の知識だけでは、日々進歩する情報技術を教えることはできなくなっています。教育現場におけるソフトウェアの更新は、教員一人ひとりの情熱や勉強、人的ネットワークに依存するところが大きく、それがまた教師の負担を増やすことにつながり、学校教育の難しいところといえます。

令和の「進取の精神」

保護者の会 会長 徳増 和哉



早稲田の校歌が好きだ。「われらが日ごろの抱負を知るや 進取の精神 学の独立」「集り散じて 人は変れど 仰ぐは同じき 理想の光」、特にこの歌詞が。

四月七日、本庄高等学院の入学式、大隈講堂の壇上にあがらせていただいた。

大隈講堂の壇上で校歌を歌うなんて学生時代には想像もしなかったことで、感無量であった。本庄高等学院の入学式が大隈講堂であることは、「学の独立」を志す「早稲田」の一員になったことの証である、そのことを再認識した瞬間であった。

保護者の会代表としての挨拶で、新入生の皆さんにこれからの学院生活には、かなりの「自由」があるとお伝えした。公立の学校で仕事をしている身であり、二年間息子の学院生活を横目に見ながら保護者の会の活動をしていく中で、本庄高等学院の、いや、早稲田の「自由」を私自身がより実感したからこそ言葉であった。ここでいう「自由」とは好き勝手という意味ではもちろんなく、また、与えられた自由でもない。早稲田にある「自由」とは、自分で生み出す「自由」のことである。大学受験のための勉強ではない自分の興味関心にしたがって学び探究していく「自由」もしく、好きな趣味やスポーツに打ち込んでいく「自由」もしく。

とはいえ、与えられた自由の方が実は楽であり、自分で生み出す「自由」というものは実は苦しいものである。私自身は今の子供化とは真逆の第二次ベビーブーム世代で、完全な詰め込み教育・受験戦争をくぐってきた人間である。いやなことも我慢して努力した先に自由があるという時代を生きたと自覚している。



「1+1」の答えは何だろうか。教師は「1+1=2」です。1つのミカンと、もう1つのミカンを合わせたら、2個のミカンになるでしょ？」と目の前でミカンを取り出して示す。一方でケントという少年は、「僕はいつもミカンを半分にして食べている。(片方のミカンを目の前で半分に分けて)そうしたら、全部で3つになるでしょ？」という。周田も「ホントだ」と騒ぎ立て、授業が成り立たなくなる。

これは2008年のTBS系ドラマ「エンジン」の一場面である。舞台は都内の小学一年生の学級。主人公ケントは常人を超えた好奇心の持ち主で、その好奇心の強さがゆえに周囲を振り回してしまふ。しかし周田は次第にケントに理解を示す。そして彼をどのように育てていくか、という方向に意識が変わっていく、そんなドラマだ。

私はこのシーンが好きだ。教師役を応援したい気持ちと、主人公のケントを応援したい気持ちと、両方を感じるからだ。教師は学習指導要領にしたがって授業計画を立て、時間内に決められたことを伝える責任を持つ。一方で子供たちは「1+1=2」というのは知っていたけれど、1+1=3になることもあるなんて、面白い！」と思ったかもしれない。あなたが教師だったら、この授業をどのように進めるだろうか。

もし私がその教師だったら、ケントの発想を受け止め、理解を示したい。そして、周囲の子供たちと一緒に自由な発想をしながら答えを探したい。そんな授業、ワクワクするではないか。そもそも古来より科学は対話を通じて発展してきた歴史がある。対話を通じて理解が深まることは、まさに科学の神髄だ。

・と理想をいえるのはそうなのだが、それでは自身の授業を振り返るとどうか。やはり大学進学を前提とした基礎知識のことを考えると、授業計画を優先してしまいがちである。そんな時は、ケントの純粹なまなざしを思い出して、生徒たちの発想を大切にすることを意識したい。そう思う今日この頃である。

(MM)



陳 佳榕 さん
(こゆき さん)

読者の皆さん、こんにちは。中国・上海出身の陳佳榕です。AFS Kakehashi*の一期生として、4ヶ月間日本に滞在していました。

本庄高等学院で、私はバラエティ豊かで有意義な授業を通して、仲間たちと実践する中で知識を身につけ、思考力を研ぎ澄ますことができました。例えば、現代の国語の時間で、「羅生門」に基づき、人間の本性に潜む悪について小論文をまとめ、自分と反対の意見に反論を書いたことは、私にとって忘れがたい経験です。そのほかに、公共の時間で、マイケル・サンデルの著作を学び、古今の優れた思想に触れながら世界観を築いたり、2年生の文学国語の時間で、夏目漱石の『心』を色々な角度から掘り下げたり、政経の時間で、世界経済の仕組みや国際安全について学び、理解を深めたりすることもできました。このすべては、上海の学校では体験できない、貴重な経験だと、今更ながらありがたく思います。

校内授業にとどまらず、私はEnglish Kidsプログラムや河川研究などの課外活動に参加し、素敵な人たちと関わり合い、自分の視野を広げていきました。短い期間でしたが、学院の一員として、「自ら学び、自ら問う」という校訓を実体験することができたと思います。自由で包容力のある雰囲気を誇る本庄高等学院に選ばれて、充実した4ヶ月を過ごせたことを、心から幸運に思います。

また、今回の留学では、ホストファミリーやAFSのボランティアの方々、私が日本の生活に馴染み、日本文化をより深く理解できるよう、あらゆる面でサポートしてくれました。半田先生ご夫妻は、さまざまな名所旧跡を案内してくれて、日本人にしかわからない細かい文化や言葉のニュアンスを教えてくださいました。萩野谷さんと小林ご夫妻は、まるで自分の子供のように接してくれて、冬休みとクリスマスを楽しい思い出いっぱいにしてくれました。学校の仲間たちも、親切に私を受け入れてくれました。今、この素晴らしい4ヶ月を振り返って、改めてみなさんと出会えたことに感謝しています。みなさんのおかげで、私は心を開き、日本での生活を満喫することができました。さらに、秩序と人間関係を重んじる日本人の生活や、四季の移ろい・自然の美を慈しむ日本の伝統文化に深く魅了されました。

人生初の留学を通して、私はかけがえない経験が得られたと思います。まったく新しい世界に身を置くという冒険であれ、文化交流であれ、自分の夢と人生観を建築してくれたと感じています。将来は日本の大学に留学し、日中貿易や日中友好に貢献できる人材になりたいです。支えてくれたすべての人たちへの感謝を忘れず、この貴重な経験を糧に、一人前の自分を目指して歩んでいこうと思います。

陳 佳榕

留 学 生 の 紹 介

Gayandi Kalanima
Wickramasinghe さん
(さくら さん)



Greetings to all,
I am Gayandi Kalanima Wickramasinghe, an exchange student from Sri Lanka, and I arrived in Japan on November 19, 2023. Since my first step into Japan, I've felt as though I've entered a new world brimming with diverse cultures. It has long been my aspiration to immerse myself in various cultural experiences. Despite my brief stay of four months in Japan, the depth of my learning has been profound.

Rather than emphasizing the disparities between our cultures, I prefer to highlight their uniqueness, which is what makes them truly captivating. The lifestyle in Japan introduced me to a whole new spectrum of experiences – from school life to festivals, customs, and traditions – everything differed significantly from my past 17 years. Now at the age of 18, I recognize that amidst the diversity, there are fundamental similarities that remind us of our shared humanity. Ultimately, we all seek happiness and a peaceful existence. This realization stands as one of the most profound discoveries of my journey.

I extend my heartfelt gratitude to the Asia Kakehashi project for offering me this incredible opportunity. My appreciation also goes to my host school, Waseda University Honjo Senior High School, and its Principal, Mr. Handa, for facilitating an enriching school life experience and for acquainting me with the beauty of Japan.

I am indebted to my friends and teachers who provided unwavering support when I needed it most. Special thanks are also due to my Host Family, the AFS Staff, and the Gunma chapter for their invaluable guidance throughout this remarkable journey.

Though farewells are never easy, as the wise saying goes, “出会いがあればおわかれもある。” While encounters may lead to farewells, what truly matters is departing without regrets. I hold onto the hope of meeting you all again someday. Thank you, and I wish each one of you the very best in your future endeavors.
みなさん ありがとうございます。

活躍するOB・OG

私をとつての
本庄高等学院

PWC Japan 有限責任監査法人 パートナー
日本公認会計士協会 常務理事
小林 尚明



皆様初めまして。早稲田大学本庄高等学院第4期生の小林尚明と申します。

半田学院長からご連絡をいただき、「緑風」に活躍しているOB・OGの記事を載せる企画を考えており第1回目をお願いしたい、とのことでしたので、僥越ながら寄稿をさせていただきます。

私は1985年の4月に本庄高等学院の第4期生として入学しました。当時は男子校で、校舎も丘の上のコンクリートの校舎でした。

大学受験がなかったため、自由な校風の中、何も考えずに高校生活を満喫していたのですが、高校3年生後半になって「このままでいいのか」と自らが付き、難関資格である公認会計士を目指そうと

思い、早稲田大学商学部へ進学しました。幸いにも大学4年時に国家試験に合格することができ、早稲田大学卒業と同時に「監査法人」というところに就職しました。

公認会計士という職業は具体的に何をやる職業なのか存じない方も多いと思います。一言で言う、企業の作成した決算書（企業の成績表）の適正性を第三者の立場からチェック（監査）する職業です。

上場企業などの大きな会社ともなると決算書が適正であることを証明するには膨大な労力と時間がかかります。そのため、公認会計士の資格を持った人たちが集まって、組織的に監査を行うのが「監査法人」です。

今はその監査法人において、「パートナー」という立場で、上場企業をはじめとする比較的大きな会社の監査の責任者を務めています。

他方、公認会計士業界の業界団体である日本公認会計士協会において常務理事という役割を拝命しておりまして、監査に関連する業務において従うべき基準などの作成に責任を持っています。

この職業に就いているおかげもあって、早稲田大学とは卒業後も何らかの形で関

ズの言葉を引用していたことを思い出した。「stay hungry stay foolish」振り返れば高校3年間のテニス漬けの日々にはこのフレーズが妙にしっくりくる。全国大会出場経験もあり、1日3時間、週6日、部活動のみならず往復3時間かけてクラブチームに通った。テスト期間は寝不足で練習中、コート上に倒れ込んだことも。その努力が報われることはなかったが、愚直に挑む私を学友や先生が支えてくれた。

それから10年。庭球部、留学、院進とあらゆる寄り道を経て記者になった。初任地は豪雪地帯・新潟。この地で田中角栄元首相の生涯と向き合った。角栄氏を知る人々の証言から「首相就任までの3日間」「晩年の10年間」に光をあて、歴史を再構築する連載企画の取材に没頭し

わる機会をいただいています。10年ほど前からは会計大学院で講座を持たせていただいており、今も秋学期になると、早稲田のキャンパスに足を運びます。また、早稲田出身の公認会計士で組織する「公認会計士稲門会」では副会長を拝命しておりまして、昨年の秋は、母校本庄高等学院でキャリアデザイン講座でのお話をさせていただく機会を頂戴しました。

今の職業については、社会への貢献を実感できる本当によい職業だなと感じており、なぜこの職業を選んだのか、その原点を考えると本庄高等学院にたどり着きます。

共学だろうが男子校だろうが、本庄高等学院の校風は今も昔も変わっていません。個人を尊重し、自由を尊重する、一方で、自分については自分で責任を持つ、この環境に3年間身を置いてきたからこそ、自ら将来を考えるようになったと今になって確信しています。

学院生の皆さん、皆さんは本当に恵まれた環境にいます。

大学受験に縛られない、自由闊達な環境の中で、自分の将来を思い描いてみてください。きっとやりたいことが見つかると思います。

もし、公認会計士という職業に興味があるようでしたら、半田学院長経由で私にいつでもご連絡ください。かわいい後輩たちを最大限応援させていただきます！

た。それぞれの断片的な記憶を積み上げ、一つのストーリーを構築する過程はたまに面白く面白く。そこで角栄氏が愛された由縁を知り、地元や国に尽くした姿を垣間見た。

「権力の中枢とは？」。角栄氏との出会いを機にそんな疑問を抱き、今は岸田文雄首相の動向を朝から晩まで追う「総理番」を担っている。政治記者の登竜門と呼ばれるが、いわゆる下積みだ。時の権力者に誰がアクセスするのか。外部からはうかがいがにくい権力構造の一端を知ることができる。政治家や官僚の思惑と本音が錯綜する中で、じつと権力の本性を観察する。

愚直に突き詰めたあの頃を思い出し、今日も私は首相官邸や国会議事堂で奔走している。

前事務長からのメッセージ

本庄を巡ろう

首村 努



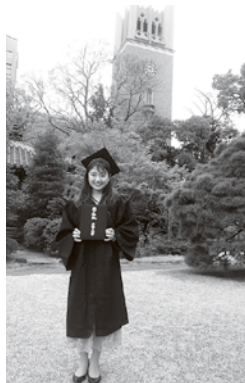
昨年の11月まで学院事務局としてお世話になりました。現在は大学法人本部でダイバーシティ推進の事業に携わっています。地下鉄「早稲田」駅から大学までの雑踏感は今も昔も、新幹線「本庄早稲田」駅から学院に広がる解放的な空間をふと歩きたくなることはありません。

ところで、「早稲田」と名の付く駅は少なくとも4つあります。地下鉄「早稲田」駅、同「西早稲田」駅、都電「早稲田」駅、それに新幹線「本庄早稲田」駅。最初の3つの駅名は所在地名から付けられた（結果として大学名と同じ）ものですが、「本庄早稲田」駅については大学が由来の駅名であり、この駅の開業後に北口周辺の地名も「早稲田の杜」に変更されました。他の3つとは駅名や地名の付けた順番が異なりますね。地名に「杜」を付けたのは、自然と調和した街づくりを願ったことと聞いた覚えがありますが、まさに「緑風」が吹き抜ける、キャンパスと森林と街とが融合した景観が私も大好きです。学院生の皆さん、3年間の本庄での移動エリアがほぼ学院と駅の間だけというのはもったいないです。ぜひ在学中に本庄巡りをしてください。本庄早稲田駅・本庄駅・中山道間、直線距離で約4kmの範囲内でも十分楽しめます。「るるぶ本庄市」というガイドブックもありますよ（末尾QRコード参照）。

「本庄早稲田」駅の所在地は以前「北堀」という地名でしたが、その名とおり駅北側には男堀川という水路が流れています。そこで学院生の皆さんが保全活動、生物調査、イベントのパフォーマンスなどをやる姿はとて絵になっていたと思います（昔見た青春学園ドラマには、川の土手やその近くを電車が通るシーンがよく使われていたかもしれません）。この北堀に限らず、本庄には東台、牧西、駅南、中央など方位に関係する地名が多いように思います。旧学院校舎の所在地は西富田です。保護者の皆さまの中には、旧校舎で高校生活を送られた方もいらっしゃるでしょうか。学院の様子も当時とだいぶ変わりましたが、ぜひ再び本庄にいらしてください。過去に師と見た（過去、西富田）青春の原風景との巡り合いがあるかもしれません。ちなみに本庄は方位で言うとうと間違いなく「都の西北」です。



今回、早本時代の思い出を語ってほしい、との打診に正直、戸惑った。早本生らしいキラキラな高校生活の記憶がないからだ。寄居駅の駄菓子屋でスルメを買ったりはしたが……。



毎日新聞 編集局 政治部 記者
内田 帆ノ佳

ただ、早本の入学式で、ある先生が米アップルの創業者、スティーブ・ジョブ

各種プログラム報告

課外講義「これがサイエンスだ！(これサイ)」

◆2023年度講義

- 第8回(2024/02/02)「確率論を用いた金融商品のモデリング：二項モデルによるオプションの価格付け」(数学科非常勤講師 新井康太氏)
- 第9回(2024/02/02)「液晶って何？：身の回りの知らない物理」(数学科非常勤講師 富山雄司氏)
- 第10回(2024/02/15)「森林が地球環境問題を解決する？～森林生態学のすすめ～」(理科非常勤講師 樽見樹氏)
- 第11回(2024/02/15)「貝も学習する！？～行動からひも解く学習の不思議～」(理科非常勤講師 並木健悟氏)
- 第12回(2024/02/16)「ネズミの脳を観察しよう～大脳皮質発生について～」(理科非常勤講師 島本碧海氏)

◆2023年度春合宿

2024年3月28日(木)から29日(金)の1泊2日で春合宿が行われました。今回の合宿では次の3つのパートに分かれて探究活動を行いました。

物理パート：宇宙線の観測により、セミナーハウスの構造を計測する実験

生物パート：土壌微生物の活性に関わる実験

数学パート：ブール代数とスイッチ回路の関係の追究

探究活動の合間には、新大学1年生から卒論報告「日本の高等学校の数学教科書に新たに導入すべき現実世界の問題とは」、数学科教諭成瀬政光先生から特別講義「証明は何のために?」、数学科教諭根本裕介先生から特別講義「無限の話」が行われました。29日の講義には、多くの新1年生が来場してくれました。合宿の詳細については、学院HPをご覧ください(右のQRコードから)。



◆2024年度講義

第1回(2027/04/27)「心理学を知り、科学の信頼性を考えよう!」(早稲田大学基幹理工学部助手 杉本海里氏)

これサイは2023年度で10周年を迎えました。2024年度は、次の10年に向けて、多様なプログラムを提供できればと思います。2024年度は夏合宿を開催します。講義や合宿へのたくさんのご参加をお待ちしています!

国際交流活動

◆ミニシンポジウム「国際交流への誘い」

(3月27日(水) 19時～20時)

オンラインでミニシンポジウム「国際交流へのいざない」を新入生に向けて開催しました。保護者の方を含め160名の方が参加し、関心の高さが伺えました。パネルディスカッション形式で行われ、質疑も活発でした。学院生たちの訴えたい内容も多く、予定の時刻を20分オーバーしてしまいました。



◆MOU締結(3月4日台中一中、1月29日MWIT)

台湾台中市にある台中市立第一高級中学は、2005年以来主として修学旅行で相互交流を継続している姉妹校です。2005年にMOUを締結しましたが、その後の台湾内の高校の学制が変更されたため、この度再締結に至りました。



MWIT(Mahidol Wittayanusorn School)は、タイにおける本校の姉妹校です。2005年より交流を開始しましたが、MOUを締結していませんでした。1月29日に締結に至りました。



◆タイ研修(1月28日～2月4日)

姉妹校であるMahidol Wittayanusorn School(MWIT)との交流を中心とするタイ研修を実施しました。2年野崎葵・藤田清花・金井彩良・新島優芽・柴山二湖、3年西澤涼・角紗綾・内藤千晶が参加しました。



地域・企業連携プログラム

◆2024年度川のシンポジウム(3月16日)

2024年度川のシンポジウムを早稲田リサーチパークで開催しました(オンライン併用)。このシンポジウムは、広く市民の方へ市内河川の現状と河川環境保護の啓発を行うことを目的として毎年この時期に河川研究班と藤田小が中心となり実施しています。過去2年間オンライン参加して下さっていた三重大学附属小学校が、今年度対面で参加してくださいました。また、対面オンラインを合わせ、多数の市民・関係者の方がご参加くださいました。



◆第16回川のワークショップ関東大会(2月17日)

このイベントは、関東地方において川を含む広く水環境保全活動に関わる人々が集まり、その活動を報告するこ



とを目的として開催されています。大人から大学生、高校生と広い年齢層の方の参加が特徴です。今年は、本庄学院から河川研究班2チームが参加しました。「小型河川エビの雌雄比に見る水質汚染」(発表：2年内藤千晶・1年保戸塚理緒)が最優秀賞(1位)、「川をもっと知ろう～ほんじょうの川のいきもの図鑑作成～」(発表：2年松本莉子・谷貝莉奈・伊藤有香)が優秀賞(2位)を受賞しました。

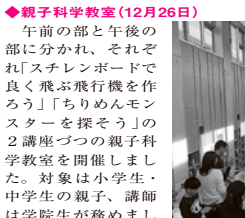
◆小学校プログラム「国際理解」@藤田小(1月24日)

藤田小学校で国際理解授業が6年生に対して実施されました。本校で学んでいる、スリランカのGayandi Wickramasingheさん、中国からの留学生陳佳裕さんが講師を務め学院生3名が通訳とファシリテーターを務めました。



◆小学校プログラム「国際理解」@仁手小(1月17日)

1月17日(水)、仁手小学校で国際理解授業が6年生に対して実施されました。学院生3名と東京福祉大学社会福祉学部留学しているティカモンさんが講師となり授業が進められました。



◆親子科学教室(12月26日)

午前の部と午後の部に分かれ、それぞれ「スチレンボードで良く飛ぶ飛行機を作ろう」「ちりめんモンスターを探そう」の2講座ずつの親子科学教室を開催しました。対象は小学生・中学生の親子、講師は学院生が務めました。お昼の時間帯には、希望者に対して施設見学ツアーを行いました。



◆小学校プログラム「国際理解」@共和小(12月13日)

共和小学校で国際理解授業が6年生に対して実施されました。台湾からの留学生陳仲睿さん、中国からの留学生陳佳裕さんが講師を務め学院生2名が通訳とファシリテーターを務めました。



◆小学校プログラム「チアダンス教室」@仁手小(12月6日)

仁手小学校で応援部の諸君が、総合学習支援活動として「チアダンス教室」を5・6年生に開催しました。



◆小学校プログラム「国際理解」@秋平小(12月6日)

秋平小学校で国際理解授業が6年生に対して実施されました。台湾からの留学生陳さん、スリランカからの留学生ガヤンディさんが講師を務め、学院生3名がファシリテーターを務めました。



◆小学校プログラム「茶道教室」@藤田小(12月6日)

藤田小学校で茶道部の諸君が、総合学習支援授業「茶道教室」を5・6年生26名に対して実施しました。



◆WASEDA HONJO ENGLISH KIDS2023 (12月2日、3日)

WASEDA HONJO ENGLISH KIDS2023は、本庄学院の留学生、学院生が中心となり、地域の子供たちに英語コミュニケーションの面白さを伝えることを目的として昨年より開催しているイベントです。留学生は、中国の陳さん・スリランカのガヤンディさん、台湾の陳さん、ラトビアのマガラさん、アルゼンチンのシモンさんの5名が参加しました。8名の学院生(3年(当時)宮田苑花、3年内藤千晶・向川綾音・堀家咲彩・中垣内里慧・山谷凛咲、2年尾高瑞樹・吉田響)がコーディネーターし、当日のファシリテーターを務めました。



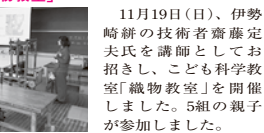
◆映画部、本庄市ご当地グルメ「ナビラ」PR動画を作成!

(11月22日)「ナビラにKoiして委員会」より映画部にPR動画作成の依頼があり、11月22日(水)本庄市長をお招きし、お披露目が行われました。また、「ナビラにKoiして委員会」より映画部に感謝状が贈られました。



◆こども科学教室「織物教室」

11月19日(日)、伊勢崎餅の技術者齋藤定夫氏を講師としてお招きし、こども科学教室「織物教室」を開催しました。5組の親子が参加しました。



高等学院との連携プログラム

◆WASS2023 (1月14日)

WASSとはWaseda Affiliated Schools' Summitの略で、2020年度より継続している両高等学院の連携プロジェクトの名称です。今年度の活動として大きなことは、高等学院でのミーティング、早稲田祭でのキャンパスツアーを行い、そして1月14日(日)早稲田大学22号館でのサミットとなりました。この日は、OBOGを含め、20名程度の両学院生、高大連携課の方々、両学院院长、実教員の方が参加しました。



アントレプレナーシッププログラム

◆スタンフォード大学d-school講師による

デザイン思考ワークショップ(12月13日)

スタンフォード大学のd-schoolより3名の講師をお招きし、デザイン思考ワークショップを開催しました。昨年度に続き2回目ですが、今年度は高等学院・早稲田実業・早稲田高校の生徒も参加しました。



生徒達の活躍

◆ラグビー部

・新人戦県北大会
1回戦 12月17日(日)
早大本庄 12-45 正智深谷
・関東大会県予選
1回戦 4月14日(日)
早大本庄 57-5 川越工業
2回戦 4月20日(土)
早大本庄 0-96 熊谷工業
・国体県大会県北予選
準決勝 5月6日(月)
早大本庄 56-7 滑川総合
決勝 5月11日(土)
早大本庄 7-47 本庄第一



※県北予選で2位となったため、6月1日から始まる国体県大会への出場権を獲得することができました! 9月から始まる花園予選でベスト8に入るができるよう日々精進しています。引き続き応援のほど、よろしくお願い致します。学院生諸君、ラグビーは本当に素晴らしいスポーツです!いつでも入部OKです。ラグビー経験の有無、運動経験の有無は関係ありません! ラグビーは誰でも主役になれるスポーツです! 樹円球に少しでも興味のある人、何か部活に入ろうと考えている人、充実した学院生活を送りたい人は是非グラウンドへ見学に来て下さい!!

◆硬式テニス部(男女)
・関東予選大会埼玉県北部地区予選
(4月12日～15日県大会出場分)
女子シングルス 準優勝 手塚 舞
女子ダブルス 6位 手塚・村松
男子シングルス 優勝 藤崎 幹大 5位 野田 達真
18位 徳増 尚哉 17位 沼田悠太郎
男子ダブルス 優勝 藤崎・沼田 3位 野田・中田
10位 矢野・錦戸 11位 徳増・近藤

・関東予選大会埼玉県大会(4月27日～29日)
女子シングルス ベスト64 手塚 舞
男子シングルス 準優勝 藤崎 幹大
(インターハイ予選・関東大会出場)
ベスト64 沼田悠太郎・徳増 尚哉
男子ダブルス ベスト16 藤崎・沼田
(インターハイ予選出場)
ベスト32 徳増・近藤

・関東予選大会団体戦(5月11日・12日)
女子 ベスト32
男子 第3位 (インターハイ予選・関東大会出場)
◆卓球部
・令和5年度 埼玉県高等学校新人卓球大会北部支部予選会
(1月29日くまがやドーム体育館)
女子シングルス 第3位 高橋 侑那(1E)
・令和5年度 埼玉県高等学校新人卓球大会
(2月3日くまがやドーム体育館)
女子シングルス ベスト32 高橋 侑那(1E)
女子ダブルス ベスト32
村田 悠夢(2E)・高橋侑那(1E)
・令和6年度 埼玉県高等学校卓球学校総合体育大会北部支部予選会
(4月20日 くまがやドーム体育館)
女子シングルス 第3位 高橋 侑那(2E)
・令和6年度 埼玉県高等学校卓球学校総合大会
(5月4日 上尾運動公園体育館)
女子ダブルス ベスト32
村田 悠夢(3E)・高橋 侑那(2E)
ベスト32
古澤 結奈(3B)・村田 悠夢(3E)・高橋 東子(3H)・高橋 侑那(2E)・柴崎 葵(1H)
男子シングルス ベスト32 金田 篤典(1D)

◆女子バスケット部
・北部支部選手権大会
2回戦 4月29日 ○早大本庄 59-49 熊谷商業
3回戦 5月3日 ×早大本庄 9-134 滑川総合
◆バドミントン部
・北部支部大会(1月15～16日くまがやドーム)
男子団体 8位 女子団体 12位
・学校総合体育大会 北部予選会
(4月15～16日、5月7～9日くまがやドーム)
男子団体 8位 女子団体 12位
男子ダブルス 5位 根岸・宮内
男子シングルス 1位 宮内
・関東高等学校バドミントン大会 県予選会
(4月27日@上尾運動公園体育館)
男子団体 一回戦 1-2 伊奈学園

◆ソフトテニス部(男子)
・県北選手権大会 男子個人戦(4月5日@くまがやドーム)
ベスト16 田島 知修(3G)・関 春弥(2F)ペア
・関東大会埼玉県予選会北部支部大会 男子個人戦
(4月20日@熊谷さくら・4月23日@東松山市庁)
ベスト16 石島 湧平(2E)・鈴木 時範(1F)ペア

※県大会出場権獲得。
・関東大会埼玉県予選会 男子個人戦
(5月5日@狭山智光山)
ベスト64 石島 鈴木ペア
※インターハイ県予選会出場権獲得。
・関東大会埼玉県予選会 男子団体戦
(5月6日@くまがやドーム)
2回戦 ③-0 慶應志木 3回戦 1-②坂戸西
◆ソフトテニス部(女子)

・県北選手権大会 女子個人戦(4月4日@くまがやドーム)
ベスト8 皆上 心(2F)・杉崎里奈(3H)ペア
・関東大会埼玉県予選会 北部支部大会 女子個人戦
(4月23日@熊谷さくら)
第1位 新島 優芽(2G)・杉崎里奈ペア
ベスト24 皆上 心・野崎 葵(2A)ペア
※両ペアともに県大会出場権獲得
・関東大会埼玉県予選会 女子個人戦
(5月3日@狭山智光山)
ベスト20 新島・杉崎ペア ※ 関東大会出場権獲得
・関東大会埼玉県予選会 女子団体戦
(5月5日@くまがやドーム)
2回戦 ②-1 浦和北 3回戦 1-② 浦和一女



◆陸上部

・令和6年度学校総合体育大会北部地区予選会
2024/04/22～2024/04/24
男子

100m	原田 勇次(2)	1位	10.92
200m	原田 勇次(2)	1位	21.80
200m	森 優大(3)	2位	21.96
400m	東城 諒汰(2)	2位	50.70
400m	澤田 修也(3)	4位	51.04
400m	渡邊 暁斗(2)	6位	51.83
800m	松本 泰成(3)	4位	2:01.89
1500m	野口 稜将(2)	6位	4:08.80
5000m	谷川 航太(3)	8位	15:44.45
400mH	樋口 颯汰(2)	6位	1:00.66
5000mW	岡島匠太郎(3)	1位	24:35.09
やり投	岡山 龍一(2)	2位	47m92
走高跳	岩田 鈴央(3)	7位	1 m55
走幅跳	佐藤 大地(2)	1位	6 m69
走幅跳	水飼 優心(1)	6位	6 m14
三段跳	堺 泰奏(3)	4位	12m66
三段跳	水飼 優心(1)	1位	13m15
棒高跳	松本 唯翔(1)	3位	4 m20
八種競技	竹島 龍児(2)	1位	4853点
八種競技	植田 光祐(1)	5位	3759点
4 X100mR	早大本庄	1位	41.94

(高橋・原田・森・谷塚)
早大本庄 1位 3:21.50

100m	渡辺 幸徳(2)	2位	12.62
100m	笹林 友里(3)	5位	12.87
200m	笹林 友里(3)	2位	26.01
200m	渡辺 幸徳(2)	4位	26.35
400m	木村 美月(1)	3位	1:02.73
800m	木村 美月(1)	4位	2:23.00
1500m	谷川 楓音(1)	8位	5:05.61
400mH	矢島 更紗(1)	5位	1:12.30
5000mW	富矢 理央(3)	3位	28:43.42
5000mW	山上 眞穂(2)	7位	34:40.78
やり投	松永 成美(3)	2位	36m82
走幅跳	伊藤 和奏(2)	4位	5 m13
走幅跳	大久保美怜(1)	7位	4 m68
走高跳	佐藤那々子(1)	1位	1 m63
4 X100mR	早大本庄	1位	48.59

(松永・渡辺・伊藤・笹林)
早大本庄 1位 4:07.16

(木村・松永・渡辺・笹林)
4 X400mR 早大本庄 1位 4:07.16

◆令和6年度埼玉県学校総合体育大会陸上競技の部

2024/05/12～2024/05/15			
男子	100m	☆原田 勇次(2)	1位 10.86
	200m	☆森 優大(3)	2位 21.77
	200m	原田 勇次(2)	8位 22.90
	400m	澤田 修也(3)	8位 51.42
	5000mW	岡島匠太郎(3)	7位 24:08.67
	棒高跳	松本 唯翔(1)	8位 4 m10
	走幅跳	☆佐藤 大地(2)	1位 7 m19
	八種競技	☆石原 佳範(3)	2位 5205点
	八種競技	竹島 龍児(2)	5位 4962点
	4 X100mR	☆早大本庄	3位 41.76

(高橋・原田・森・谷塚)
4 X400mR ☆早大本庄 3位 3:19.00
(森・東城・竹島・澤田)
女子

100m	☆渡辺 幸徳(2)	6位 12.38
走高跳	☆佐藤那々子(1)	2位 1 m67
走幅跳	伊藤 和奏(2)	7位 5 m28
やり投	☆松永 成美(3)	4位 40m52
4 X100mR	☆早大本庄	4位 48.18

(松永・渡辺・伊藤・笹林)
☆は北関東大会出場

◆サッカー部

・令和5年度埼玉県北部支部サッカー新人大会
(1/14～2/3)
第3位
・令和6年度関東高等学校サッカー大会埼玉県予選
県ベスト16
【1回戦】4月13日(土)
@熊谷スポーツ文化公園補助陸上競技場
対 坂戸西高校 4-3 勝利
[得点者: 星野(3年)、坂谷(3年)、今川(3年)]
【2回戦】4月14日(日)@さいたま市立浦和高校
対 正智深谷高校 0-4 敗退

◆書道部

・2024年(第76回)埼玉県書き初め中央展覧会
埼玉県書写書道教育連盟賞 2F 須藤 佑理
特選賞 3G 井上桜良 2E 藤原 優美
2G 菊池 優羽
優良賞 3A 辻 こはる

◆囲碁将棋部

・高校将棋選手権埼玉県大会
(4月28日、県民総合活動センター)
男子個人A級 3年 此本 優勝
女子個人 1年 横村 優勝
(両名とも8月に岐阜県にて行われる全国高校総合文化祭への出場権を獲得)

